

八戸

八戸地域社会研究会（高橋俊行会長）は20日、八戸市の八戸プラザホテルで例会を開いた。「ハマの再発見から新時代へ」をテーマに八戸学院大学の水野眞佐夫学長が講演し、「スポーツと文化の国際的融合拠点」など、八戸圏域の特色と強みを生かした総合リゾートモデルの構築を提言した。

水野学長は八戸市内に国際大

八学大・水野学長 地域活性化へ提言

会に対応できるスケート施設があることを挙げ、「国内外のトップアスリートが強化合宿するよ様に環境を整えていくことが重要」と強調。

アスリートを支えるスタッフや応援している人、観戦する人も集まってくるとし、そこに八戸圏域の人たちが郷土の芸能、文化、食を結びつけていけば「世界から注目されるまちになる」と語った。

スポーツ栄養学の研究成果な

スポーツ・文化 融合拠点に



ども紹介。食材に関して、八戸水産高校が国際航海実習で漁獲したマグロが他県に水揚げされているとし、「八戸のブランドとしてもっと地域で活用していこう」と呼び掛けた。

例会には約20人が参加した。

（近藤弘樹）

地域振興について「持っている強みを最大限に生かそう」と語る水野学長